

全苗連だより

Vol. 56 (3月号)

平成31年3月25日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

(技術情報)

平成30年度林木育種成果発表会(主催；国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)が開催されました

平成30年度林木育種成果発表会(主催；国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター)が2月13日(水)に、東京都江東区の木材会館において、開催され、全苗連、長野県山林種苗協同組合のほか、国や都道府県の行政関係者、各研究機関等から、約130名が参加しました。

まず、特別講演として、東京農工大学大学院連合農学研究科 船田 良教授から、「木材の形成と環境変動」の講演があり、富山県農林水産総合技術センター森林研究所 斎藤 真己主任研究員から、「富山県における無花粉スギの品種開発と実用化」の特別報告がありました。

続いて、成果発表に移り、林木育種センター・森林バイオ研究センター・育種場の研究者から、「平成30年度開発品種について」、「気候変動に適応したスギ優良品種の開発に向けた取組」、「多様な無花粉スギ品種の開発に向けた取組」、「雪害抵抗性第2世代スギ等の開発と普及について」、「成長に優れたスギのエリートツリーの開発と普及について」、「早生広葉樹の優良種苗の生産技術の開発に向けた取組」、「有用な樹木の凍結保存技術の開発に向けた取組」、「ゲノム編集によるスギの遺伝子改変技術の開発に向けた取組」についての8課題について発表がありました。

また、質疑応答では、気候変動に適応するスギの開発に関する試験の進め方、初期成長に優れたエリートツリー(九育2-203)、早生樹の増殖などについて多くの質問が出され、最近の林木育種の動向への関心の高さが伝わってきました。

森林総合研究所林木育種センターでは、林業の成長産業化や地球温暖化森林吸収源対策、あるいは花粉発生源対策など、林木育種に対する社会的ニーズが高まっている今日、この成果発表会を本年度の取り組みの一つの区切りとし、参加者からの意見、要望等も踏まえながら、次のステップに向けてさらに研究開発を進めて行くこととしています。

全苗連・苗組の行事予定

～H31. 3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施 ②コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施 ④造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施 ⑤その他研修会の実施等 ⑥種苗の需給情報等を共有する取組
実施者;全苗連、都道府県苗組

3月4日 シンポジウム「早生樹・エリートツリーの現状と未来」(林野庁)(東京大学)

3月8日 第2回中央需給情報連絡協議会((財)日本木材総合情報センター)

3月13日 平成31年度優良種苗低コスト生産推進事業(苗木生産技術の向上等事業)課題提案会(林野庁)

3月20日 林退協運営委員会第38回(大手町カンファレンスセンター)

3月20日 一般社団法人林業薬剤協会第2回理事会(学士会館)

4月5日 林業技能向上センター(仮称)設立総会(全国森林組合連合会会議室)

4月18日 第5回全苗連生産者の集い実行委員会(松山市総合コミュニティセンター)

4月24日 平成30年度全国山林苗畑品評会第3次審査(全苗連)

4月25日 全苗連監査(全苗連)

5月10日 全苗連理事会(砂防会館)

5月11日 第29回森と花の祭典ー「みどりの感謝祭」(国土緑化推進機構)～12日

5月24日 全苗連総会(砂防会館)

6月20日 全苗連東北・北海道地区協議会総会(秋田市)

7月31日 北海道山林種苗協同組合青年部交流会(調整中)(北海道)

9月5日 第5回全苗連生産者の集い(愛媛県 松山市総合コミュニティセンター)

～6日